

刊夕 日三十二月四



日刊便日曜祭日翌
日休刊一ヶ月廿五
期税十五錢一紙二
廣告知定 一行四十
場所指定 二十餘
發行所 牛谷政
福島縣平町大町二三
新いわき新聞社

平町の肅選祈願祭

けさ縣社前で執行 清き一票を神に誓ふ

平町の選挙肅正祈願祭は二十三日午前九時縣社子爵倉神社で執行した。司會者青沼町長以下役場吏員、町會議員、青年團員、消防組員、行政區長その他各種團體から百余名參集。山部神官の祈詞があり青沼町長宣誓を朗讀、篠山第一校長が選挙肅正に關する所感をのべて式を閉じた。

参加した町議 僅か七名

肅正に對する無關心ぶり參露
平町の選挙肅正祈願祭は別項の如くけさ午前九時から行はれたがこの日平町の町會議員の中で參列したのは
井上 野崎 佐々木 新井 根本 鈴木(光) 緑川

日の丸行進

平町内三小學校児童の選挙肅正旗行列は別項祈願祭後午前十時から行つた、尋常三年以上の生徒數約二千五百名が三班に分れて校門を出發

開票日時と場所

衆議院議員選挙の開票並に選挙會の日時、場所は二十一日縣から告示された、第三區は左の通りである

五月一日開票

(午前八時開票)
平開票區 平第三小學校
下小川開票區 小川小學校
植田開票區 植田小學校

五月二日開票

(午前八時開票)
中村開票區 元相馬郡役所
原町開票區 原町小學校
選挙會 (三日午後一時)
第三區 平第三小學校

昨年度の糸價の動き 片倉製糸七分分配當か 来る二十八日決算總會

平町片倉製糸會社第九期の株主總會は来る二十八日午後一時同社に於て開かれ財産目録、貸借對照、損益計算、利益金處分承認の諸件を附議決定の筈だが本期(十一年四月から十二年三月に至る)成績は前期末の糸價が十二年春の減産氣轉で一時好狀を見たるも其の後間もなく米國賣直つた糸價が米國の好景氣で九百圓台に暴落し現況に及ん

常識講座

インヴェンションは發明、案出、工夫または發明力、案出力でインヴェンションは創作の才ある、發明力あることとインヴェンションと云へば反轉、旋回、轉換を指してそう云ふ、

模範店員を表彰

店員慰安會も開催 廿五日平吳服商組合で

平吳服商組合では二十五日午後五時からマルトモホールで永年勤続店員の表彰式並に店員の慰安會を開催する、表彰される模範店員は左の十三名である
△二十四ヶ年安齋盛太郎(谷屋)
△十九ヶ年田谷武志(吉田屋)
△十七ヶ年椿谷哲之助(仙合屋) 同業各務市

家出した磐中生 門司で発見さる

満洲へ渡る一歩手前

去る二月末家出して行方不明となつてゐた磐城中學校四年生双葉那久の濱町海産物商龍吉長男木下貞吉(二)同村郡上大越小學校校長次男當時双葉郡木戸村小倉忠八(一)何れも假名の行方はその後約二ヶ月近い今日まで香として判明しなかつたが去る二十日神戸から門司入港の日滿連絡船アマリカ丸で大連に向はんとする處を門司水上警員に發見保護されてゐる
兩名は木下が持ち出した干貝で各地を遊び廻り懐中不足となつたので満洲に渡つて一と旗擧げるつもりであるものらしい

十一年産額は春四千百九十九萬、夏秋四千五百一十一萬計八千九百九十萬餘で前年より一分の増と云はれ同工場の事業概況もこれに準じてゐるので利益配當は前年に大差なき七分位かと見られてゐる

日午前九時から小學校庭及び築港球場で軟式野球大會を舉行する

身許いまだ不明 肝心の該當者は生存 當局捜査に又一惱み

豊岡沖合で發見された義足の犠牲死体が石川縣生れの竹細工行人坂本正太郎(五)の人物と酷似してゐるので石川縣警察部へ照會したところ右行人は生きてゐることが判り捜査に一頓挫を來たし目下のところ縣内は勿論近郷にも該當者のないところを見ると被害者は旅の前科者ではないかとの見解から平署では取敢へず警視廳に向つて指教調査を依頼した

勿來助役決定

勿來町では横山太市氏の町長昇格により助役欠員中のある兵事係書記市川忠八氏に決定

江名農會活動

江名町農會では從來小學校の訓練を技術員に囑託してゐたが今年度から専任技術員を置く

小名濱野球大會

小名濱體育會主催で二十九日(三)内匠頭が一朝の怒から祖先を忘れ匹夫の勇に越つて場所柄を辨へなかつたこと、不義であるのに其の邪志を次ぐのは却つて君の惡を世に暴露すると云ふ説であり、たかこれは名利を求めん爲めなりとする説であります、彼れ等がこれだけ大きなことをするのになど大名の後

日本精神より見たる 元祿の快學

中島 茂 述
た爲め止むにやまれぬ武士の意志としてかくなつたのであります、
(四)何故直ちに江戸に押寄せ義英と雌雄を決しなかつたか徒らに陰謀秘計を用ひたかこれは名利を求めん爲めなりとする説であります、彼れ等がこれだけ大きなことをするのになど大名の後

郵便局は宛ら 戰場

押し上せた選挙郵便便二十四萬

比佐派

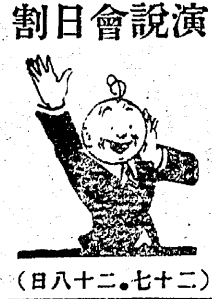
△二十七日午後一時磐崎第一校 全六時磐崎小野田志賀吉方 全内郷白水分校
△二十八日午後一時錦校 全泉校 全六時平達校

星派

△二十七日午後三時湯本町湯本座 全四時内郷第三校 全五時内郷第二校 全六時平泉樂館
△二十八日午後一時山田校 全二時川部沼部校 全三時勿來第一校 全四時勿來第二校 全六時錦校 全植田菊田座

小名濱野球大會

公報はけふ午後から明日に祈ある高家に攻め入るに戦陣の法を用ひたことは當然であります、江戸に直ちに攻めて行つて戦つたなら不成功は火を賭るよりも明らかである、彼れ等が大辛苦をなし高善を期し成功後に長廣に淺野家の再興を願つてゐるのは決して名利の爲めではないことが分るのであります、
(五)義英を討つたなら何故直ちに自殺しなかつたか法を待つたのは如何なる心事かと云ふ説：幕府の處分を



(日八十二。七十二)

かけてどつと到着、各候補者の推薦状も兩三日中には洪水のやうに押し出されやうし候補者も、局員諸君のこの勞苦を少しは察してやるべし

待つたのは法を重んじた爲め、彼れ等が徒らに生永へんためと解するのは當らないのです、一死もとり覺悟の上で仕送つた所で名利を超越してゐたことは前後の義士の状態にも十分あらはれて居り原惣左門の母は自刃して激勵し小野寺十内の妻は「つまや子の侍らんもの急がまし何か此の世に思ひおくべき」として夫に殉じてゐますのでも名利のためとするのは當つてゐません

蒸葉で驅除

「蒸葉」きょうじゆを「蒸葉で驅除」(上) 卓効の折紙つき
 蒸葉に寄生する蠶蛆は蠶種製造家及び一般養蠶家にとって大敵なのでこれが驅除は久しく蠶業界の懸案となつてゐたが今回群馬縣の一蠶種製造家が蒸葉法と云ふ至極簡便であつてしかも完全な驅除法を發見しこれに基づいて國立蠶糸試験場が試験の結果これは素晴らしい効果であるとの折紙をつけた。

この研究の功勞者は前記群馬縣の安中町中京四郎氏である、同氏はかねて蠶種製造上蠶蛆の被害にやまされ驅除法を研究した結果蠶蛆の卵が桑葉にのみ付着しこれを蠶兒が食することによつて寄生する事實に鑑み桑葉を蒸氣でむすことを考へて成功したので昨年春この報告を受けた國立蠶糸試験場の山口、宮坂馬場三技手が試験を引受け其の効果を立證したものである。

その方法は實用を第一義として五十一度(攝氏)の蒸氣に桑葉を十分間を接觸させて處理するだけで目的を達しられ其の上に蠶兒の飼育成績及び繭層量並びに糸量なども普通の桑でもつて飼育したるものに比して優れてゐることもわかつた。

これを技術的に検討すると適當な驅除器(蒸葉器)を使用し豫め炭火を爐に入そて其の上部に一尺高位のところに鐵板をのせてボイラーから蒸氣を通ずるやうに思考する。

1937年の尖端を行く

パラソル
 スプリング・シヨール
 ◇色とりどり種々陳列◇

理想的カラーワイシャツ出現
 カラーに最も特徴ある=糊無し仕上げ

ザ ニュウ
ウエスタン・シャツ
 ポプリン地製

柄柄	色無地	白無地
2.50-3.00	3.00	2.50

是非御来店下さい。よく御説明申し上げます

平4 ツルヤ 電140

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
 平町新川町「電話二六九番」

内科、小兒科
大森醫院
 醫學士 大森勇
 平町南町 電話二五八番

債券 公債 両替 金融
多田井質店
 平町大工町 電話五九一番

お醤油は ヤマフル
 醬油 味噌 調味料
 山崎合名會社
 明治生命鑿城代理店 山崎與三郎
 電話 營業部二七〇番 本店二七〇番

油問屋 關内油店
 日本株式會社 特約販賣
 支店 郡山市駅前通 電話三三八番
 支店 茨城縣本郷前 電話長平澤七三番
 支店 油問出張所 平町四丁目 郵便局前

外科一般 内臓外科
 レントゲン科 泌尿器科
北川外科
 (血液検査毎日) 平町新川町二七(電話四六四)
 醫學博士 北川芳夫
 技師 小林良次

便利で 經濟な 日下家政婦會の
 派出婦を御利用下さいませ
 身元確かで品行方正ですから
 何をお任せしても安心です
 平町字田町十八(西村屋横町)
日下家政婦會
 會長 日下すい子
 電話 七二三番

諸毒下しの大妙藥
安流丸
 持約 山野邊藥局

診療科目
 一般科、小兒科、産科、外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻喉科、歯科、物理療法科
中野齒科醫院
 院長 日本齒科 中野惠次
 醫學士 西川誠
 平町田町(松月堂向ひ) 電話五〇九番

新時代の要求
 附屬事業に等外看護婦を特設いたし
 皆様の御用向へ身元確實なる婦人を
 派出致します
 平町南町 電話三〇七
平看護婦會
 會長 清野キヨ
 經濟的を御便
 宜御用命をお
 願ひ致します
 御手不足の御家庭
 軽い御病人の付添
 妊婦産婦の御家庭

良品質の
油問屋
 支店 郡山市駅前通 電話三三八番
 支店 茨城縣本郷前 電話長平澤七三番
 支店 油問出張所 平町四丁目 郵便局前

開院廣告
平病院 (平町元共濟病院跡) 電話 六四一
 院長 醫學博士 鈴木定藏
 内科 醫學博士 鈴木定藏
 小兒科 醫學士 木下基一
 内臓外科 醫學士 横山喜俊
 一般外科 醫學士 池谷宗三郎
 皮膚泌尿器科 醫學士
 レントゲン科 醫學士 鈴木定藏
 物理療法科 技師 岡田重徳
 藥劑師 部長 藥劑師 吉本幸平
 診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
 夜間診療に従事す(急患は此の限にありませぬ)
 往診隨時、病室完備(入院隨時自炊の便あり)